

生育が遅れています 適期の防除と実肥施用で品質・収量確保！

1. 気象および麦の生育状況

12月中旬までは平年並の生育でしたが、12月下旬から3月上旬にかけて気温が低く推移したため、出穂期は平年より遅れることが見込まれます。適期防除と必要に応じて実肥を施用しましょう。

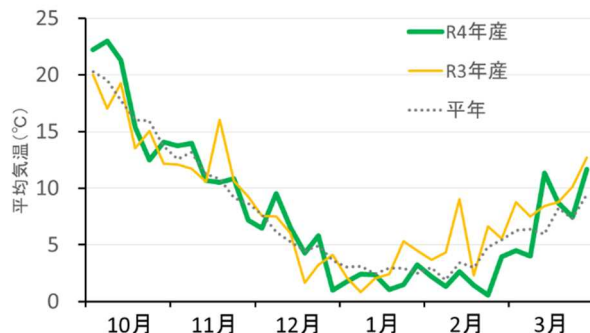


図 麦作期間の平均気温

2. 品質・収量確保に向けた管理

(1) 赤かび病防除

防除適期は開花期です。1回目の防除後、曇雨天が続く場合は、1週間後に2回目の防除を行いましょう。

【防除適期の目安】

播種時期	出穂期の予想	1回目の防除 (開花期)	2回目の防除 (1回目の1週間後)
~11月上旬	4月26日前後	5月6~11日	5月13~18日
11月中旬	4月31日前後	5月11~16日	5月18~23日

※今後の気象状況によって、出穂時期は前後することがあります。

(2) 実肥施用

実肥は収量増加やタンパク質含有率向上に効果があります。

出穂10日後に実肥を施用しましょう。

【実肥量(窒素成分)の目安】

穂数が多い場合(300本/m ² 以上)	3~4kg/10a
穂数が少ない場合(300本/m ² 未満)	2~3kg/10a

※現在、莖数が少なく、葉色が薄い場合は、子実粒数の向上のため、出穂10日後の実肥に加えて、走り穂が出る直前の4月上旬頃に窒素成分で2kg/10aを追肥しましょう！